

令和6年度

久留米工業大学

教育研究推進外部評価委員会報告書

令和 6 年度 久留米工業大学教育研究推進外部評価委員会

1. 開催日時：2025 年 3 月 6 日（木）15：00～17：00
2. 開催場所：久留米工業大学 100 号館 9 階多目的ホール
3. 出席者名簿

(外部評価委員)

委員長	園 田 佳 巨	九州大学 理事・副学長
委 員	松 村 晶	久留米工業高等専門学校 校長
委 員	才 崎 賢 二	八女工業高等学校 校長代理
委 員	森 春 樹	株式会社森鐵工所 代表取締役社長
委 員	芹 澤 毅	ダイハツ工業株式会社くらしとクルマの研究部 エネルギーグリッド開発室 室長
委 員	穴 見 英 三	久留米商工会議所 専務理事
委 員	小 林 浩	(株) リクルート リクルート進学総研 所長

(大学側出席者)

学 長	日野 伸一	副学長	麻生 茂
副学長（兼 教務委員長）	堀 憲一郎	学長補佐（兼 地域連携センター長）	大森 洋子
学長補佐（兼 入試広報委員長）	河野 央	学長補佐（兼 A I 応用研究所所長）	小田 まり子
機械システム工学科長代理	松尾 重明	交通機械工学科長	山口 卓也
建築・設備工学科長 （兼エネルギーシステム工学専攻長代理）	松本 豊	情報ネットワーク工学科長 （兼 電子情報システム工学専攻長）	江藤 信一
教育創造工学科長	金井 政宏	共通教育科長	江藤 徹二郎
モビリティシステム工学専攻長 （兼 I M L 研究所所長）	東 大輔		
事務局長	窪田 俊哉	事務局次長（兼 学生課長）	安達 弘幸
総務課長	江 嶋 由美子	会計課長	豊福 浩基
教務課長	石井 恒隆	就職課長	正岡 秀仁
入試課長	永浦 隆志	施設管理課長	武藤 修二
図書館室事務室長	柿田 正裕		

4. 外部評価委員会 概要

1. 開会挨拶	学 長 日野 伸一
2. 委員紹介及び議長選出	事務局長 窪田 俊哉
3. 議 題	
(1)前年度の振り返りについて	副 学 長 麻生 茂
(2)今年度の久留米工業大学の現状について	
①「教育の現状について」	副 学 長 堀 憲一郎
(数理・データサイエンス・AI 教育)	学長補佐 小田 まり子
②「入学者確保および就職の現状について」	学長補佐 河野 央
③「研究の現状について」	副 学 長 麻生 茂
④「社会貢献の現状について」	学長補佐 大森 洋子
4. 全体質疑応答	
5. 講 評	外部評価委員長
6. 閉 会	

5. 外部評価委員長 講評

まず大学全体としては、学長のリーダーシップのもと、本当に組織的にかつ意欲的に運営されていらっしゃるというのは、委員全体の一致した意見でございます。

昨年度の指摘事項については、本当に丁寧にご対応いただいている様子がうかがえました。引き続き持続的な発展をお願いしたいと思います。

入学者の確保と就職の現状については、18 歳人口減少という厳しい状況の中でも、入学者の確保や、高い就職率を維持されており、教職員の皆様の努力の賜物だと感じております。引き続き高水準をキープしていただければと思います。

教育面、特に AI 教育については、文科省の「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度」（リテラシーレベルプラス及び応用基礎レベルプラス）の両方に採択され、AI 教育について幅広く展開できていると思います。また、地域課題解決型 PBL 教育に結び付けられている点は素晴らしく、久留米工業大学が地域のニーズに応える教育を実施されていると感じます。メタバース等も含めて、大学としての DX 化に積極的に取り組まれており、今後はそのようなプログラムの成果をどのように見せられるかも併せて検討していただければと思います。さらにリメディアル教育は一定の効果が認められるので、今後3年ぐらいのスパンで、改善を検討されるよう期待します。

研究については、内閣府のプログラム採択は大変素晴らしいことであり、強いリーダーシップの下で頑張っていたきたい。また、大学院の強化体制も進められていることも素晴らしい。さらに大学・高専機能強化支援事業に採択された点は、教育と研究の両面に関わる重要な取り組みであり、積極的に力強く推進していただければと期待しています。

社会貢献については、特に地域課題型の取り組みや地域の伝統や特質を活かした活動をうまく展開されていると思います。子供から一般市民への社会貢献として科学技術の啓発に一生懸命に取り組まれていることがわかりました。引き続きしっかり進めていただければと思います。

6. 各委員からの評価報告書（評価内容及び評価点）

評 価 項 目	評 価 点（平均）
（１）前年度の振り返りについて	4.4
（２）教育の現状について	4.0
（３）地域課題解決型 AI 教育プログラムについて	4.9
（４）入学者確保及び就職の現状について	3.4
（５）研究の現状について	3.9
（６）社会貢献の現状について	4.3

7. 外部評価委員からの意見

教育の現状について（評価平均点 4.0）

- リメディアル教育が一定の成果を挙げている。
- 退学防止の取り組みは喫緊の改善策が必要である。
- 退学理由の多くは成績不振に起因すると考えられるが、カリキュラムや授業の進め方等の大胆な改善検討も進めていただきたい。
- AI 教育等の特色ある取り組みを、低学年のうちから目的意識を醸成する仕組みとして取り入れてはどうか。
- 学生の達成感や学修効果を、IR で評価し、改善につなげる分析も加えてはどうか。

地域課題解決型 AI 教育プログラムについて（評価平均点 4.9）

- 数理・データサイエンス・AI 教育の充実発展は大きな特徴である。
- PBL 教育が学生の向学心を高めるものと評価し、初年次教育への導入を期待する。

- メタバース・ラボの活用が多様な効果をもたらし、社会貢献や学生募集に活用することを期待する。
また、継続的な発展を求める。

入学者確保及び就職の現状について（評価平均点 3.4）

- 入学者確保に向けた九州全体の産業界の人材不足の現状調査や意見交換などを行い、慎重かつ着実な対策を求める。
- 就職支援として、個々の学生の学修成果の可視化に努めてほしい。
- 学科名称の見直しについては、ステークホルダー（高校生・保護者・教員・企業等）に対し、教育内容や就職後の活躍の場を正確に伝えられるよう検討してはどうか。
- PBLなどの取り組みを積極的にPRし、また、AI・デジタルを活用して仮想オープンキャンパス等の取り組みを全国規模で行うことを期待する。
- 改組や高校生目線のサクセスストーリーを複数提示すると共感を得られるのではないかな。
- 各取り組みを通じて「ストーリーの真ん中に」学生一人ひとりが本当に描けているのか、今後は学生の成長が可視化・自覚化されているかを検証していただきたい。
- 強みを活かして積極的に広報し、限られたリソース活用するためにも何に注力するかを明確にして取り組むことが重要である。

研究の現状について（評価平均点 3.9）

- 研究活動が特定の教員に偏っており、組織全体としての活性化が課題である。
- 大学院生の増加が研究力向上につながるよう期待する。
- 教育力向上のために、研究の位置づけを明確にし、教員全体の共通認識を持つ施策を求める。
- 中間グループの成長を期待し、学会発表に積極的に参加することも重要である。

社会貢献の現状について（評価平均点 4.3）

- メタバースを用いた産学連携の取り組みを評価する。
- 学生を巻き込んだ教育や研究の一環として、引き続き地域活動に根付いた教育の実践や、価値ある社会貢献を期待する。

その他

- 他にない取り組みをされているのに、以前より「尖り方」が弱くなっているように感じた。小さい課題にとらわれず、個性をより強くしていくことが重要である。すべての学生がAIの素養を身に付ける「AI-ready University」をベースに、PBL×「学部の専門性」となる構図を期待する。
- 学生の活き活きとした動態や活動などの実績が見えにくいいため、個別事項の評価ではなく、大学全体的な評価のあり方を検討してはどうか。
- 外部評価委員会の役割について、学内において自己点検評価で整理した内容を報告し、重要事項についてディスカッションする場としたらどうか。

8. 令和6年度の久留米工業大学教育研究推進外部評価委員からの意見に関する対応について

令和6年度久留米工業大学教育研究推進外部評価委員からの意見を受け、内部質保証推進に責任を負う組織である企画会議において、基準別に取り纏めた指摘事項及び改善事項等の取り扱い及び方向性について協議・検討を行います。そこで決定された方針のもとに4つの中枢となる推進委員会(教育改革推進委員会、研究改革推進委員会、産学連携推進委員会及び国際化推進委員会)及び関連する各下部組織において、具体的な改善策の検討を進めます。

また、外部評価に関する事項を担う自己点検評価委員会を開催し、関連する委員会・部局等を通しての改善の取り組みについて適宜点検・評価を行ない、企画会議へ報告します。各指摘事項・改善事項への対応状況については、令和7年度久留米工業大学教育研究推進外部評価委員会にて最終報告を行います。

令和6年度久留米工業大学教育研究推進外部評価委員名簿

氏 名	所属・職名	委 員
園 田 佳 巨	九州大学 理事・副学長	第2条第4号委員
松 村 晶	久留米工業高等専門学校 校長	第2条第3号委員
堤 雅 樹	八女工業高等学校 校長	第2条第2号委員
芹 澤 毅	ダイハツ工業株式会社 くるま開発本部 くらしとクルマの 研究所 エネルギーグリップ開発室 室長	第2条第5号委員
森 春 樹	株式会社森鐵工所 代表取締役社長	第2条第5号委員
穴 見 英 三	久留米商工会議所 専務理事	第2条第6号委員
松 野 誠 彦	久留米市役所 総合政策部長	第2条第1号委員
小 林 浩	(株)リクルート リクルート進学総研 所長	第2条第7号委員

久留米工業大学教育研究推進外部評価委員会規程

(趣旨)

第1条 この規程は、久留米工業大学外部評価委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営等について必要な事項を定める。

(組織)

第2条 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 久留米市総合政策部長
- (2) 高等学校長
- (3) 久留米工業高等専門学校長
- (4) 教育機関（他大学・専門学校・予備校等）
- (5) 地元企業等
- (6) 久留米商工会議所
- (7) その他学長が必要と認める者

(任期等)

第3条 前条各号に規定する委員の任期は、原則として2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、委員の互選により選任する。

(任務)

第5条 委員会は、学長からの要請に基づき、教育、研究、社会貢献、大学運営及びその他必要と認める事項についての評価を行う。

(報告)

第6条 委員会は、前条の規定により行った評価結果を報告書にまとめ、速やかに学長へ報告しなければならない。

(事務)

第7条 委員会の事務は、政策企画課において処理する。

附 則

この規程は、平成28年5月1日から施行する。

この規程の制定により、久留米工業大学運営懇話会規程を廃止する。

附 則

この規程は、令和2年7月8日から施行し、令和2年4月1日から適用する。